ESE
C
9

1973. 1. 20 ~ 1. 30

訓練講習会資料

農業経営

（現状と考え方）

解説の目標　　大規模農業の取組方

1. 気象上の影響から考慮した適正規模（観測上から被害に耐える力）作目決定
2. 技術上の適正規模（知識力）
3. 管理上の適正規模（人力，機械力）
4. 財務上の適正規模（資金力）
5. 市場販売上の適正規模（市場消化力，価格長期安定性）

――――パラグアイ農業総合試験場

JICA 図書館 LIBRARY
移住事業団 TEMIS 48. 2. 8 初

国際協力事業団	
受入月日 '84. 8. 21	708
	81.7
登録No. 13360	ESE

はじめに

日本経済の成長率は、世界第一位を示し、農村を大きくゆさぶり、農業の体質改善を計るに至った。農業近代化を目標にこれからの農業の方向づけをしたのが、農業基本法である。(38.7) 農業就業人口の減少、農産物需要の変化、貿易の自由化促進など、かつて見られない条件変化の中で、農業経営は大きな転換期に立っている。

農業経営を企業的に拡大し、発展させようとする農家の意欲と試みは各地に見られている。しかし、農業の前途は必ずしも明るい平坦な道ではない。今後、そこには、数多くの障害が横たわっており、いかにして解決を計るかが重要な課題である。わが家の農業経営を正しくつかんで自分達の進路を考え、発見し、一歩一歩前進の方向と方法をつかんでほしいと云うのが、後述課題を学習する最大のねらいである。

農業に関する学習体系の中で、「農業経営」は農業の社会的、経済的側面から学習する唯一の分野である。農業生産を行なうには、生産技術の習得が重要であるが、しかし、技術だけでは経営を動かすことは出来ない。合理的な生産を行ない、大きな収益をあげるためには、どうしても経営を組み立て動かすところの「経営技術」が必要である。従って、農業経営の理論と経営改善の考え方、そして、実践の第一歩をどのように進めるかを中心に現状の認識と将来を見通す能力を養うことも大きなねらいである。

JICA LIBRARY
1034660[9]

農業経営上における課題とその現状及び考え方

課題 1. 今日本の農業はどの様になっているか。

現状 (1) 商工業の発展、農業産業の立ち遅れ。

考え方、 経済成長の発展は企業産業の技術革新が原動力である。農業経営の近代化。

現状 (2) 日本経済の成長にひずみを生じた。

考え方、 総合農政の推進。

現状 (3) 人口の都市流出、食糧消費の変化・市場の変化。

考え方 後継者育成、農業の選択的拡大 商品生産物の生産システム。

(4) 農地の縮少 兼業農家の増加

企業的専業農業化、都市工業化の適正

(5) 農村への都市工業化の進行

教育（私業に対応する能力）の振興 地域社会の構造改善対策

(6) 農業生産の発展と農業経営の変化

農業の協同化、協業化及び高度集約化の推進

(7) 貿易の自由化進行

開放経済体制化に移行、生産調整と流通機構再編成、経営の近代化

(8) 農業政策の展開強化

農業教育 農地法緩和 融資枠拡大 貿易の制限 選択的農業生産拡大

課題 2. 農業近代化と構造改善の推進

現状 (1) 農業は災害の危険があり、他産業に比し収入が少ない。しかし、国民経済の発展に寄与する産業である。

考え方、 近代化への道を妨げているものを排除する必要がある。(阻害要因の解決)

1) 農業経営の規模拡大をはばんでいる土地問題の解決

2) 資本の増額

3) 労働単価の引上

4) 科学技術の優とう (栽培技術を含む)

5) 機械化技術体系の確立

6) 農産物価格の安定

7) 流通機構の整備

現状 (2) 農業近代化と構造改善の要求

考え方 農業近代化の前提はかたつある。即ち、自給生産と 商品生産 である。もうひとつの考え方として商品生産による貨幣経済と土地を手離し、労働力を協業体などに提供する貨幣経済に移行する と云う面である。

2) 労力提供の労賃生活は脱農化する。(資本投下に参加して、協業化がのぞましい)

1) 商品農業は専業化し一般化する。

3) 近代的農業とは、個別農業の近代化 即ち、経営基礎条件の整備により自立経営が近代経営である。規模拡大による自立経営が、総合的には農業構造の改善となる。

現状 (3) 農業構造の改善が必要となって来た。

土地・資本・労働の他、技術・価格・市場等の組織の仕組を農業構造と云う。

考方　　農業構造の広い意味での構造要素及要因

1、土地所有（土地所有制度、保有規模、保有の仕方、保有階層）

2、農業経営（経営規模、資本装備、経営階層、経営組織）

3、農業生産（技術構造、生産の組織、流通構造）

4、農業所得（農業所得では生産性、所得の水準、地域差）

現　状（4）構造改善に対する政府の役割

考え方　　農家自身が行なうのであるが、国民経済の調和のとれた発展を援助する意味は、政府の積極的農業の助長政策が必要である。

1、農地制度の改正

2、高農促進の対策

3、金融制度

4、流通機構

5、一般指定地域（生産団地）

6、パイロット地域

（5）具体的構造改善が必要

地域農業全体の中で歩調を合はせること

1、耕地面積の拡大

2、耕地の集約化

3、資本をかけ、施設、機械化の充実

4、協同作業や、協業経営による大規模化

5、多角経営は近代的でない。団地形成化

現　状　(6)　大規模経営が有利となって来た

考え方　　1、生産費の切り下げ、

2、資本の効率が良くなる

3、生産性の向上ができる（土地利用の高度化と、資本と労力の生産性向上）

4、取引き条件がよくなる

5、経営基盤が強化される

現　状　(7)　農業の機械化が重要となって来た

考え方　　人手を機械におき替えることの他に、労働の生産性を向上して生産費を切り下げることにある。しかし、逆に経費がかゝりすぎることに注意する事が大切である。つまり過剰投資が問題となる。

機械化の条件

1、土地の整備

2、機械力が経営規模と調和していること　（耕地50 ha以上）

3、機械化が経営技術の水準と見合っていること

4、機械化によって経営上の波及効果が見込まれていること

(8)　構造改善と農業生産の拡張期

1、構造改善と選択的拡大

2　選択的拡大と生産地形成

a、主産地形成の条件　（市場、価格、構造体質）

b、主産地形成の進め方（品種と品種、生産者組織、土地と技術）

資金力、情報

c、主産地形成に伴う問題点（専門的農業と協同化組織の発生）（土地の移動が困難）

課題 3. 農業の基本問題と新しい農業経営の考え方は学問的に正しい判断力が要求される。

現状 (1) 正しい農業経営の見方

考え方 ― 学問的位置付け ―

- 農業
  - 農業生産
    - 植物生産物
      - 作物
      - 園芸
    - 動物生産物
      - 畜産
      - 養産
      - 水産
  - 農業経営　気象判断、培養技術、経営の規模、市場性、価格変動、組織力、土力、災害、病害、

― 農業経営とは ―

総合的に組み合せた状態を云う。

規模、組織、技術、価格、市場、等から判断して自立農業経営（商品農業生産）を循環させることを云う。

つまり、農業経営の活動には社会的活動と私的活動の面がある。

― 農業経営組織とは ―

農業経営内部組織、つまり作物や家畜の組み合せ、部門の組み合せとその内部循環の仕組みを云うのである。

現　状 (2)　農業経営上における環境条件とは何か

考え方 一 自然的条件

土地（地勢、土じょう）　気象（日照、降水量、降雪、積雪、温度、風）

社会的条件

市場（距離と大小）	価格（年間の推移）	制度　法律
政策	交通	地域用地の大きさ
水利	労力	信用度

現　状 (3)　どんな作物や家畜（作目）を選択したら良いか

粗放作物と集約作物の組み合せ
労力配分や地力維持をはかること
収益を高めて行く作目を選ぶこと

考え方　作目選択の要件

1、作目、家畜の特性を知る事（地力維持も含）
2、環境条件に適正である事
3　経営条件に適正である事
4、生産量が多く市場競争にも強い物
5、所用労力量や労力報酬の適正なもの

} 比較有利性の原則

市場の要求する条件

1、規格の統一
2、包装の完備
3、鮮度の維持
4、運賃の高度化
5、大量の取引単位
6、出荷の計画化
7、規則性
8、継続性

現　状　(4) 経営の組織をどうしたら良いか

考え方　1. 経営内部組織の段階的発展

土地、作物、家畜、農機具、施設、労力等を一定順序で組立てゝ行く

2. 経営類型（経営方式ともいう）は少ない方が良い。

3. 経営規模の判断

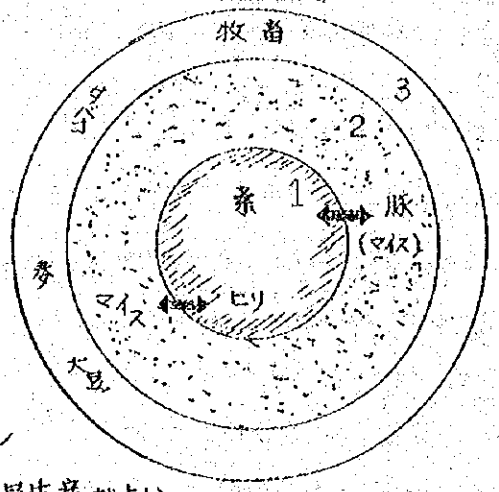
土地面積、資本装備の大きさ、労働力の大きさ、生産高

4. 集約度にも限度がある。

集約化 ＋ 粗放化 ＝ 楽で安定した永続収入

現　状　(5) これからの経営組織はどうしたらよいか。

1 例



単純化、専業化し

重点投資しての商品生産がよい。

考え方　主要作物 1.
補給作物 2
周辺作物 3
} たえず結びついていること
副業的で時により大きくなり小さくもなる
相場次第ではいつでも切り捨てられるもの

経営組織の大きいものは専業化となり商品生産に徹し技術の高

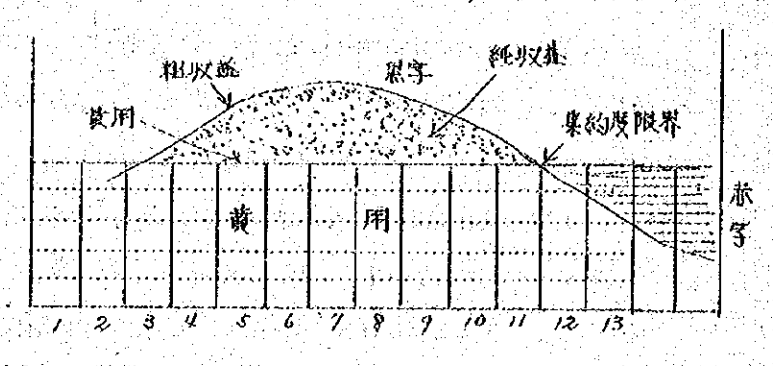
度化、市場に対応して行く。

現　状 (6)　これからの農業技術　（生産と経営）

考え方　1) 生産技術の改善

耕種関係作物は、気象、土じょう、水利などの自然的条件に強く影響される特徴があって、生産も多肥、多労、多薬剤を投入すれば、生産量も増加するが、ある程度を超すと生産量は増加しない。工業との違いが判る。この傾向を「収穫漸減の法則」と云う。

（ 費用と収量の関係 ）



現　状 (7)　新しい技術

考え方　すぐれた肥料、飼料、農薬、農機具は悪条件を克服する。

新しい生産手段を採用すること

現　状 (8)　耕種技術の進展

考え方　作業体系の確立、機械化省力、大型機械化農法、直播収穫法の省力

現　状 (9)　畜産技術の発展

考え方　飼料効率の高いこと、優良品種の作出、管理技術の近代化及び省力化、多頭化、畜舎構造、生産処理の機械化、飼料

給与の機械化　牧草の確立、畜産加工、調整、飼料の機械化

現　状 (10)　果樹技術の発展

考え方　　平坦地果園化による適正品種と管理の改善

土じょう侵しょく防止（牧草）　摘果後の消毒　防除の機械化

選果、荷造りの機械化

現　状 (11)　養蚕技術の発展

考え方　　果園化と機械化、年間条桑育、上簇法の簡易化、共同飼育の普及

現　状 (12)　土地利用の向上と地力維持、増進の方法

考え方　　1、耕地の利用度を高める方法（土じょう改良、作付体系、田畑輪作、作付改善、間作、混作等）

2、地力維持増強の方法（堆厩肥の施用、輪作、客土、排水かんがい、耕起、侵しょく防止、PH）

3、農業労働力を合理化する方法（家畜作物の組合、品種の配分と作業配分、家族労働配分）

4、その他、新しい技術、例えばビニール、クーラ、防風林等の導入

現　状 (13)　農繁期対策

考え方　　機械化、協業化、除草剤、作業の価値判断、作付をずらす。

現　状 (14)　農業の機械化

考え方　　37年度　日本 65% 使用

農業センサスの指示
- 大農具　20 HP
- ↑
- 中農具　中間型を云う
- ↓
- 小農具　10 HP

機械化の不適

1、経営が小さくて利用率が悪いこと

2、用途のせまい機械で、機械化の一貫体系がはかれない

3　農道の不整備、耕地の分散等　悪条件で能率が悪いとき せっかくの機械化も経営上損失となる（過剰投資）

大型機械化の目的

日本でも、農業構造改善事業により除々に発展、大型化されている。開発された大陸農業の機械化（アメリカ、ヨーロッパ）はよいとして、開発初期の機械化は問題がある。即ち、大型、中型、小型につらねた一連の作業体系で進展させるための

(1) 経営条件　(2) 経営体制をとゝのえる必要があるからだ。不適条件で導入すると、過剰投資となり、人力が安くつく事になるからだ。

目　的

1、生産規模を大型化すること

2　土地基盤の整備

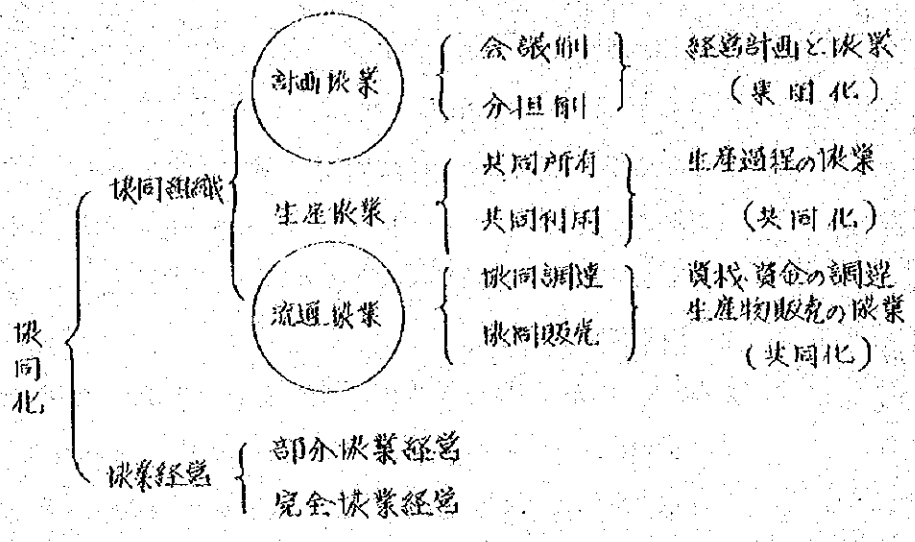
3　栽培方式も機械化本位

4、資金面、利用面から協同化が必要　（機械化利用組合）

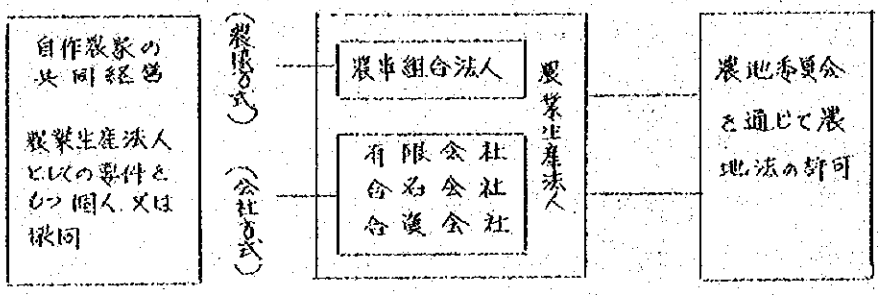
5　管理運営や運転者が必要となり、矢は遂に徹する必要が生じる。

現　状 (15)　協業化と農業法人

（図解次頁）



農業生産法人（日本の場合）



現状（16）　請負耕作と父子契約

請負耕作　一部請負　組合せ請負　} 略農、水稲、果樹

全面請負　日本で多くなった

父子契約　外国に多い。農業後継者を得る為の月給制、

父子農場 ＝ 親子共同経営。相続の円滑化、農業経営の維持、近代化

これからの経営と技術の在り方

企業的な農業経営をめざすために、経営と技術をどう改善したら良いか、基本的な考え方について整理してみる。

(1) 大型機械化を中心とした労働節約的な技術が発展し、そのような方向に改善されるべきである。

(2) 規模拡大による労働生産性の向上をめざした経営と技術が考えられるべきである。規模拡大が不可能なら、資本の多投によって生産性を上げる経営を考えることが大切である。

(3) 労働生産性の向上が期待される農産物を専門的に、いわゆる選択的拡大の方向に生産を考えなければならない。

(4) 農業経営は粗放化と資本集約化と云う二つの経営の方向に促進されよう。企業的な農業経営を行ない自立経営をめざすには商品生産を積極的に進めて専門化し、資本集約化によって生産性を向上しなければならん。又、協業化の問題も真剣に考えねばなるまい。

(5) 営農類型について見れば (イ) 畑作は畜産と結びつけることを考え、(ロ) 畜産は多頭化飼育の方向を考えること、飼料生産費切り下げのためにも自給飼料を基本的に考える事、(ハ) 果樹は専業化して均一化し市場対応性を考えること、(ニ) 野菜も市場との関係、価格問題に注意し作物選定が大切である。(ホ) 農地法人あるいは協業化により計画生産販売のルートを確立し農業の体質改善に参加する事。(ヘ) 4H 活動、グループ活動に参加し技術の向上に努力すること。